



Eiche

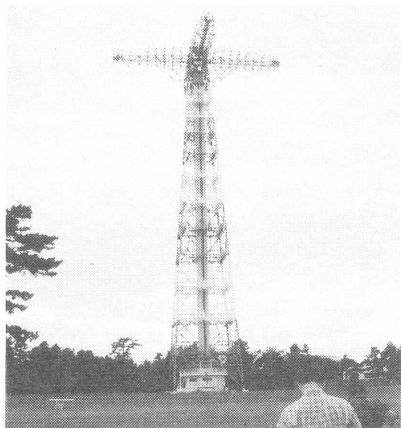
Die Eiche ディ・アイヘ

Japanisch-Deutsche Gesellschaft in der Präfektur Chiba

事務局 〒274-0822 船橋市飯山満町 2-681 ワールドナーシングホーム内

Phone: 047-467-6111 Fax: 047-467-6123

自衛隊習志野第一空挺団見学



地上八十mの降下塔

平成19年7月21日(土) 13:30~15:20 23名

今回は新任の松崎事務局長のアイデアで毎年11月のドイツ軍人俘虜慰霊祭で御世話になっている、自衛隊習志野第一空挺団の施設、記念館を見学させていただいた。まず、広報班の佐藤さんに空挺団の紹介、訓練風景などを説明するビデオ2本を見せてもらい、予備知識を頭に入れた後、地上80メートルの落下傘降下塔の60メートルの所にある展望台へ。人が1人ようやく通れる幅しかなく、下が丸見えの網目状の歩道橋の上から、現在は住宅が密集している、元の習志野が原を見渡して、次は昔御馬見所といわれた「空挺館」内を松崎事務局長の元上司、中島元2等陸佐の案内で見学。終了後、バスで北習志野入り口に移動、レストラン「バロック」で懇親会。新入会の縣公一郎、荒川喜久代氏の紹介や今後の催し物紹介があり、歓談して17:00散会。なお、見学会には習志野の語源となった、明治天皇のお言葉「篠原に見習うように」の篠原国幹のお孫さんにあたる篠原隆一氏(会員)が参加された。



空挺館前にて(後列左から三人目が篠原氏)

「ドイツ文学読書会」(第三シリーズ)を終えて

千葉県日独協会会長 平尾浩三

七週に亘る「ドイツ文学読書会」(第三シリーズ)、今回のテーマは「中世文化」でした。

およそ「中世ヨーロッパ」とは何なのでしょう？ 私たちが今それに注目することの意味は、どこにあるのでしょうか？ かつて「暗黒時代」と呼ばれたヨーロッパ中世、またメーレンの光の中で人びとの憧憬の彼方に美しく浮かび上がったヨーロッパ中世、明暗さまさまの色調で見られてきた中世ヨーロッパですが、いずれにせよ、「ヨーロッパ世界」というものの基盤を置いた時代が「中世」であったという考え方は、今日ではほぼ定着していると言えましょう。そして私たち日本人がヨーロッパを考える時、ヨーロッパを旅する時、たえずその「中世」に思いを誘われる理由も、そこにあるのではないのでしょうか。

二十一世紀、いつ果てるとも知れぬ宗教・民族・国家間の対立、血みどろの戦い、貧困、格差、汚染、無気力、心の荒廃……息苦しさや孤独をいよいよ深めつつあるこの二十一世紀に生きて、私たちは絶望に慄きつつ、それでもより良き未来を模索しています。そして欧米からの影響なき生活形態を思い描くことが私たちに困難とは申せ、近代以後の欧米世界が人類進歩の最高のものという考え方の正当性を、私たちはかつてなきほどに深く疑わざるをえません。その時にあって、私たちは長いヨーロッパ史の原点にまで視線を投げ返し、ヨーロッパ史の意味を、もう一度根本から考え直そうとするのでしよう。

テキストは十三世紀の詩人 Konrad v. W. 作「Heinrich von Kempten」でしたが、この催しが同時にドイツ語運用力養成のプラスにもなることを願い、教室ではその現代ドイツ語訳を用いました(日本語題名『裸の騎士』同出版社)。現代ドイツ語の参考文例が多数挙げられているので、多角的なドイツ語練習にも役立つかと存じます。

幹事の館野様、水野様、布施様をはじめ、皆様の積極的なご協力に心から感謝致します。

～今後の主な催物案内～

*グローバルフェスタ Chiba に出展

千葉県、(財)国際コンベンションビューローなどが主催する国際交流紹介のイベント。

当協会は、写真展「ドイツと千葉県」を展示。

日時: 8月26日(日)10:00~16:00

場所: 千葉大学けやき会館(JR 西千葉駅より徒歩5分)

入場料: 無料

その他: 歌や踊り、講演会などもありますので是非お出掛け下さい。

*チター演奏会

恒例の日本チター協会会長で当協会理事、内藤敏子先生によるチター演奏会です。東京日独協会会員も参加予定です。

日時: 9月8日(土)14:30~17:00

場所: 銀座アスター 津田沼賓館

(JR 総武線津田沼駅南口3分、サンペディック
レストラン街 11階)

電話 047-479-2711

会費: 会員 3,000円、非会員:3,500円

*ビール祭り(オクトーバーフェスト)

今回は(財)日独協会と合同で行ないます。

本格的ドイツ料理、ドイツビール飲み放題で通常6,000円を下記特別価格となりますので奮ってご参加下さい。

日時: 9月30日(日)14:00~16:00

場所: ドイツ居酒屋「J's ベッカライ」

千代田区内幸町1-5-3 第一ホテル横

東電ビルの地下1階

電話: 03-3509-9712

会費: 会員 4,500円、非会員: 5,000円

その他: 人数限定ですので、早めにお申し込み下さい。

*「ドイツ哲学入門」講座

本紙49号でご案内しましたが、下記の通り実施する運びとなりました。

講師: 尾田幸雄御茶ノ水女子大学名誉教授・当協会理事

日程: 10月4日、11日、18日、25日、
11月1日(全5回、すべて木曜日)

時間: 15:15~16:45

場所: 船橋中央公民館(JR 船橋駅より徒歩5分)

会費: 3,500円(会場費、雑費など)

お問い合わせと申し込み: 舘野 鷹二郎

047-485-9311

「2007年 デュッセルドルフ日本デー」

常任理事 橋口昭八

千葉県がデュッセルドルフ市のパートナーとなって3回目の日本デーが6月1日、2日に同市で開催された。昨年5月は1日目の経済シンポジウムで堂本知事が講演されたが、千葉県のPRをする2日目の市民祭は稀に見る悪天候の為全プログラムが中止となり、既報の通り平尾会長以下20名のわが千葉県日独協会応援団は用意したTシャツを夜のエルヴィン市長招待の席で披露する仕儀となった。

今年6月1日の経済シンポジウムでは、中沢千葉県政策担当部長が「日本と千葉県の産業立地」について講演された。2日の市民祭は上々の天気となり、花火の時間には無風、紫紺の夜空に一点の雲も無く、現地新聞は「ラインの川面一杯に映る花火に百万を超える市民が酔いしれた」と報じている。

この日の日本デー行事は午後1時メイン会場のオープンステージでエルヴィン市長、バーガス州経済省次官、三宅日本人クラブ会長、国方総領事と来賓として参加の中沢部長による鏡割りで開会となり、花火の前の盆踊りまで賑やかに続けられた。ラインプロムナードにはいくつものテントが並び、千葉県チームは私と今春から当協会の現地会員となった相山悦子さんとご友人、習志野市出身の柿内理可さんが協力して千葉県物産の宣伝を行い、資料やクイズの景品として南京豆などを配り、また県の博物館から借用持参した甲冑や蓑の試着なども行って、大変な人気を集めた。

新入会員紹介(平成18年度以降、敬称略)

山田 鈴実(佐倉市)	二見 理一(袖ヶ浦市)
青柳 義昭(船橋市)	川本 賀子(習志野市)
北村 侑三郎(千葉市)	大嶋 里衣子(千葉市)
須古 正恒(船橋市)	丸山 孝士(佐倉市)
近藤 郁子(船橋市)	丸山 るみい(佐倉市)
森岡 芳夫(市川市)	縣 公一郎(市川市)
荒川 喜久代(船橋市)	中山 光雄(市川市)
佐藤 憲昭(野田市)	谷垣 弘(柏市)
相山 明(デュッセルドルフ)	相山 悦子(同市)